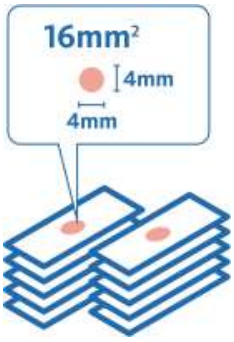
病理診断部門の方へ

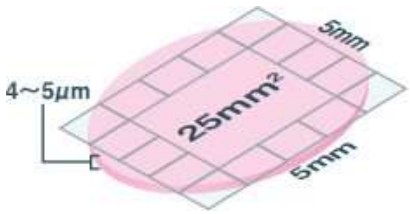
# がん遺伝子パネル検査のための検体準備について

検体の種類　　：FFPE ブロック＋該当するブロックのHE標本
腫瘍細胞割合　：　有核腫瘍細胞の割合 20%以上
切片表面の面積：可能な限り25 $mm^2$ 以上
（参考）　OncoGuide™ NCCオンコパネルシステム　16$mm^2$ 以上
FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル　25$mm^2$ 以上
GenMineTop がんゲノムプロファイル　16$mm^2$ 以上

エキスパートパネル終了後に借用したFFPEブロック及びHE標本は返却いたしますが、借用した時点でのFFPEブロック組織の量によっては、薄切によって組織が全て無くなる場合もありますことご了承ください

※表面積が上記基準未満の場合(特に生検検体)、切片の合計体積が 1$mm^3$ 以上になるように、スライド作製が可能な検体量が必要です。
※この他に当院での組織診断のため、貴院で診断に用いた代表的な染色済み標本の貸し出しをおねがいします。




以下のような場合には、がん遺伝子パネル検査が実施できません

- 酸脱灰した標本（骨転移腫瘍や原発性骨腫瘍など）
- 腫瘍細胞の割合、量が極端に少ない（生検や、がん薬物療法後の検体など）
- 10%中性緩衝ホルマリン以外の緩衝作用のないホルマリンや酸性ホルマリンで固定された標本
- 過去に受けた放射線治療の照射範囲に含まれていた組織の標本

以下のような場合は、推奨条件を満たしていなくても検査提出可能と判断する場合もあります。ただし検査提出後に検査が停止になる可能性があることもご了承の上提出してください

- ホルマリン固定時間が長い標本（6～72時間が望ましい）
- ホルマリン固定後 長時間経過している標本（3年以内が望ましい）

名古屋大学医学部附属病院（2024. 1）